

第 11 回目（1994 年 1 月 1 日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

1994 年 1 月の初めての放送ということで、日本の農村で過ごしたお正月の思い出をする。大久保は新潟の農村出身であり、正月といえば外は雪深く、遊びに行くことはなかったが、着物等、身の回りの物について一式新しいものをもらう嬉しい日であった。ハワイは日頃からぜいたくなので、そんなことをしないが、新しい年を迎えるという気持ちでいっぱいであった故郷の正月を思い出す。

ハワイ日系人社会でのさまざまな元祖を紹介する。貸家業の元祖は元年者の小澤金太郎。東京から妻を連れてハワイへ来た。サトウキビ畑で働いた後、1892 年ごろホノルルのフォート街に簡易貸家を作った。これは日本人から「金太郎長屋」と呼ばれた。子どもは 3 人。長男洋太郎はハワイ島で初めて日系の巡査になった。酒飲みなので、「酔い太郎」と呼ばれた。次男は健二郎（健三郎）。長女（イト¹）は今西兼二（横浜証券銀行ホノルル支店長）の妻²。

勝沼富造医師。米西戦争の時に陸軍に志願し戦争に参加したことにより、市民権を持っていた。福島県出身で、1898 年にアメリカ留学からハワイに渡り、ハワイ国移民局の通訳官に任命された。移民局通訳官の元祖。

歯医者 of 元祖は朝比奈梅吉医師。明治 18 年 2 月の移民船で静岡県からハワイに来たが、いったん日本に帰り、その後明治 21 年に再度ハワイに渡りホノルル・パウアヒ街に開業。

桑原秀雄、石田銈吉が日本語教師の元祖。桑原秀雄はホノルルで日本人学校を

¹ いと子とも表記される。飯田耕二郎（2014）「移民の魁：星名謙一郎のハワイ時代後期—ワイあるあ耕地監督・新婚の頃—」、『大阪商業大学論集』第 9 巻第 4 号, 97-112 参照。

² 1868 年に夫である小澤金太郎と一緒にハワイへ渡ったトメ（Tome；トミとも記載あり）は、当時妊娠 8 か月でありハワイで長男洋太郎を産んだとされており、これが初の日系 2 世の誕生とされている（Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照）。洋太郎は、初めて日系の巡査となった人物だともされている。長女のいと子は 12 歳でハワイ王国政府の日本語通訳官として働いたとされる（Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照）。

1896 年に開校し、1899 年にカウアイ島のリフエに石田が日本人学校を設立した。コナに住む林医師(林三郎)の妻がアコーディオンで日本語の歌を二世たちに教えた。彼女は会津若松藩の城代家老の家の娘であったのでそれができた。

婦人記者の元祖は、明治 44 年にハワイ新報の記者となったムライ・ミチコ(ペンネーム橋本みどり)³である。

洋装婦人の元祖は、新橋芸者小菊である。1893 年、桂馨五郎弁護士の呼び寄せでハワイへ渡った。当時のハワイ日本女性は自分が持ってきた日本着かハワイアン⁴のホロク⁴を着ていた。⇒墓を 3500ドル出して直した話もある？(脚注記載?)

堀貞一牧師の妻、堀アイ子が琴の先生の元祖。

魚市場のせりの元祖は和歌山県出身の中山市太郎である。明治 35 年にホノルルのキングストリートの前の魚屋でオークションをしたのがはじまり。

婦人伝道者の元祖は宋(溝部)栄子である。神戸女子神学校を卒業した彼女は、1895 年ハワイ婦人伝道会社の招へいでハワイへ渡り、1913 年ホノルルに幼年寄宿舎を作った。

【曲】

「春が来た」(作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一)

【サブジェクトタグ】

移民の暮らし 一世 元年者 コミュニティ 有力者

³ ムラキ・ミチコ(橋本伊智子)の誤りか。

⁴ 宣教師との接触以後、ハワイアン女性が着るようになったムームードレスの裾が長くなったようなもの。